

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201792		
法人名	株式会社 じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム 菜の花 東苗穂館		
所在地	札幌市東区東苗穂8条2丁目13番10号		
自己評価作成日	平成23年11月30日	評価結果市町村受理日	平成24年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201792&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年12月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型を意識した事業所理念が今年改正された。その理念はいつも目の届く所にあり、朝夕の申し送り時唱和し、その中より一日の目標を立て共有し実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事、クリスマス会、敬老会、夏祭り、防災訓練に参加して頂き、地域の夏祭り茶話会などにも出席し町内会や地域の方々と交流を図っている。散歩などで外で会った時には挨拶やお話をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席して頂いている、地域包括支援センターと共に認知症サポート研修を開催し、地域の方々に参加して頂いた。その結果よく理解できたと好評だった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではご家族様にも出席して頂き、日常生活をお知らせしている。サービスの要望などをお聞きし出来るだけ反映させている。また、事業所としての方針や変更などについての話し合いを行ない、意見を頂きサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市や東区の担当者とは日頃から連絡を取り合い、相談に乗って頂き、協力して頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者や職員は積極的に外部研修や内部研修を受け、また、学ぶ機会を作り話し合いや理解する事で入居者様やご家族様が安心して生活できる様に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は積極的に外部研修や内部研修に参加し、また他の職員に伝える機会を持ち、その場で再度学び話し合い、互いに注意を払い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は外部研修等に参加し、学び理解しているが、現在は今すぐに必要なニーズが無い。今後そのような状況になった時にはすぐ対応出来る様に準備はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約や改定等の重要事項の説明は本社の担当が行っている。またホームの管理者や担当者も立会い入居者様やご家族様の不安や疑問点など、どんなに細かい事もお聞きして、十分に説明を行ない理解、納得していただける様に対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には意見や苦情等を表わせる場としてアンケートを実施している。その結果を各職員に提示して、意見や希望等に反映出来る様に話し合いを持ち、改善に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は職員の意見や提案等を日常的に聞いており、その方法としてスタッフ間のノートや、一月に一度のカンファレンスの場を設け、回答を示している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各職員に対して資格を取得する事を積極的に応援し、またその努力に対して、資格手当の名目で給与に反映させている。また処遇改善交付金の支給も行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や各職員に対して外部研修や内部研修において積極的に参加を支援している。また職員はその機会に学び、他の職員に対して発表の場にてその成果を発表し、日々の業務に反映させる努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	夏祭りでは近隣のグループホームと共催し、準備段階より密に連携した。管理者や職員は外部研修などで他の同業者と接し勉強会や情報交換をしている。また東区内の管理者研修やケアマネジャーの研修にも積極的に参加して交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各職員はご本人の基本情報を活用、共有している。ご本人の困っている事、不安な事、要望に耳を傾けながら安心して頂き、早期に信頼関係を築けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者をはじめ、各職員もご本人やそのご家族様の意見、ご要望を遠慮なく気軽に話せる環境や関係作りに努め、信頼関係を早期に築けるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者や職員はご家族様と密に連絡を取り合い、その時の必要な支援を見極めている。またご本人様には直接尋ねたり、様子を観察してその時に何が必要か、何を必要としているのかを見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご本人を介護される立場には置かず、ご本人様の出来る能力を発揮して頂き、自分で出来る事は見守りの中ご自分でして頂き、また掃除、洗濯、調理、後片付け等職員と共に楽しんで頂くことで生活を共にしていく信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族様へ定期的に日常の様子を伝えており、その時に相談や要望を相互に伝え、話し合いをもっている。面会や電話などで必ずご本人と話をし頂きご家族様との絆を大切にしながら共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人様が気軽に訪ねて来られ、ご本人様と楽しいひと時を過ごして頂けるような環境作りをしている。また、ご家族様のご要望により、お盆やお正月、法事やご自宅への外出も躊躇することなく、楽しんで出掛けられている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等により、皆様が集まる機会を1日数回作り入居者様が孤立しないような、よい関係が築けるように支援に努めている。入居者様同士の間でも信頼関係が築かれ支え合って生活を共にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族様より何か相談事があった時はその時々が必要に応じた支援をしている。また退居された後にお亡くなりになったご家族様より連絡と感謝の言葉を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの視点に立ち、日常の様子よりその方の思いを汲み取り、また普段の何気ない会話により何を望んでいられるのかを聞き取り、把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報などを参考にしたり、ご本人との何気ない会話から思いを聞き取り、馴染みの暮らし方に近づけるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりのその日の様子や変化などを記録し、申し送り等で職員に伝達し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師、看護師からの情報提供やご本人やご家族様からのご要望を聞き取り、カンファレンス等のサービス提供会議で職員の意見を出し合い反映し、評価をした後計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員に気づきシートを1ヶ月ごとに記入し、また日々の様子やケアの実践を記録に記入して、職員間で情報を共有している。その結果を介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の高齢化に伴い、その時々状況やニーズに柔軟に対応し、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、学校行事に参加し子供達とふれあい、楽しんで頂いている。また訪問美容や近くの中学校の吹奏楽部やカラオケ等のボランティアに来て頂き楽しんで頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様のご希望によりかかりつけ医が決まっており、定期的を受診している。また緊急時にもその都度適切な医療が受けられるように体制が整っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回事業所の看護師が来訪し、日常の中で気づいた事や体調の変化などの情報を伝え、相談し適切な指示を受けられます。また突発的な事故や病状の異変、悪化などはその都度電話にて相談し指示を頂けます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には今後の治療方法等をご家族様と職員を交え主治医と話し合いを持ち、早期に退院出来る様情報交換に努めている。またそうした場合に備えて普段より、ご家族様のご要望を聞き取り、病院側との関係作りを行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や緊急時の対応について、ご家族様やご本人の思いを早い段階より定期的に聞き取り、話し合いをしている。また延命や看取り等の事業所で出来る事をその家族に医師、事業所の看護師等と何度も話し合いを持ちチームで取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に落ち着いて行動出来る様に救命救急法の訓練を定期的に行なっている。すでに意識を亡くした入居者様がお心臓蘇生法により息を吹き返した例がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年4回地域の方々のご協力を得て、行なっている。うち、2回は自主訓練で、2回は消防署と連携をとり避難の様子等にご指導を頂いている。消火器の訓練も実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その方に合わせた対応をし、その方を尊重し、尊敬した言葉かけや思いやりの気持ちを忘れずに日々対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で必ずご本人に確認し、ご本人に決定して頂く。洋服を選択されたり、手伝い時もご本人の意思でして頂く。外出行事等で飲食はご本人に決定して頂き購入して召し上がって頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的に一人ひとりのペースを大切にしている。体調の悪い方はゆっくり寝て頂いたり、ご本人が起きたい時に起きて頂いている。その日の状況に合わせてご本人の希望にそった生活を送っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の選択は基本ご自身で決定されている。また入居者様の好みの色も把握し選択しやすい様に心掛けている。常に清潔である事を基本としている。行事の際はお化粧品やマニキュア等のおしゃれも提案している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者様や入居者様同士で調理の下ごしらえや配膳の準備、食後のお片付けなど会話を楽しみながら行なっている。また好みの味付けで美味しく召し上がれる様に努力をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは栄養士が作成しカロリー計算されバランスの良い食事となっている。また水分量のチェックも行ない一日1200cc～1500ccを摂取して頂いている。嚥下の悪い方は1品毎のミキサー食をトロミ付けにて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的にご自分で歯磨きをして頂き、その後職員が仕上げとして磨き残しがないか確認し、歯間ブラシで仕上げをしている。また週1回訪問歯科にて口腔内の確認や指導をうけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日排泄チェック表をつけている。またそれを利用してその方の排泄パターンを把握し支援している。昼間は布パンツを基本としており、立位不安定な方も二人介助にてトイレでの排泄を介助にて支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分の摂取量を把握し、毎日体操にて体を動かして頂いたり、自ら動かさせられない方には職員がマッサージする等の努力をしている。それでも排便の滞っている時には主治医より指示を受けて処置している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴者の体調ご気分に合わせて、無理をせず、気持ちよく入浴して頂けるように、個々にそった対応をしている。週2回はどなたも入られている。全介助の方は二人介助にて対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見ながら昼食後はもちろんの事朝食後にも休息の時間を取っていただいている。夜の就寝時間は個々の自由な時間であり、それまでの間は各々くつろぎの時間として過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員は医師より処方された薬の内容を十分に説明して頂き納得し、また薬状にて確認を職員全員で行ない理解して、それにより症状の変化があった時等はすぐに医師に相談して指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買い物などに出掛け、また一人ひとりが出来るお手伝いをして頂き、楽しみのある日々を過ごしている。ある方は昔ながらの趣のある喫茶店に出掛け、好きなコーヒーを飲まれ、充実したひと時を過ごされるなどの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日には町内の花壇を見ながら散歩している。地域の小学校の運動会や学習発表会へ出掛け拍手を送り、元気を頂いている。夏祭りにも出掛け、屋台を楽しんでいた。また外出行事として2ヶ月に1度は全員で車を使い、遠くの公園に出掛け季節を感じて頂いた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事で出掛ける時などは個々にお財布を持ち、好みの食べ物や飲み物、便箋などのお買い物やされていた。またある方は職員の買い物に同行し、食べたい果物やお菓子を選択、購入して楽しまれていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話は必ず取り次ぎ、ご本人様とお話されている。手紙も届いたらお渡ししている。その返事もご本人に書いて頂きご家族様に郵送している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2ヶ月ごとに入居者様と共にリビングの壁紙に季節の貼り絵や折り紙等の製作をして飾りつけをしている。月毎に各々カレンダーの色塗りをし、個性的な作品を各居室に飾られている。廊下には犬猫の癒しの写真があり、また入居者様の製作発表の場もなっている。トイレや浴室には入居者様のわかりやすい表示をつけ工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの近くにはソファがあり、テレビを見たり入居者様同士会話の場になり、時には傾眠されるなど皆様思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたタンスや棚、個人のテレビ等やご家族様が持ってこられた写真やぬいぐるみ等が所狭しと飾っておられる部屋もあり、入居者様たちはご自分の部屋だと認識されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には各個人名の表札があり、名前を確認出来る様になっている。トイレやお風呂もわかりやすく表示してある。廊下には安全に移動出来る様に手すりが両側に設置されている。		